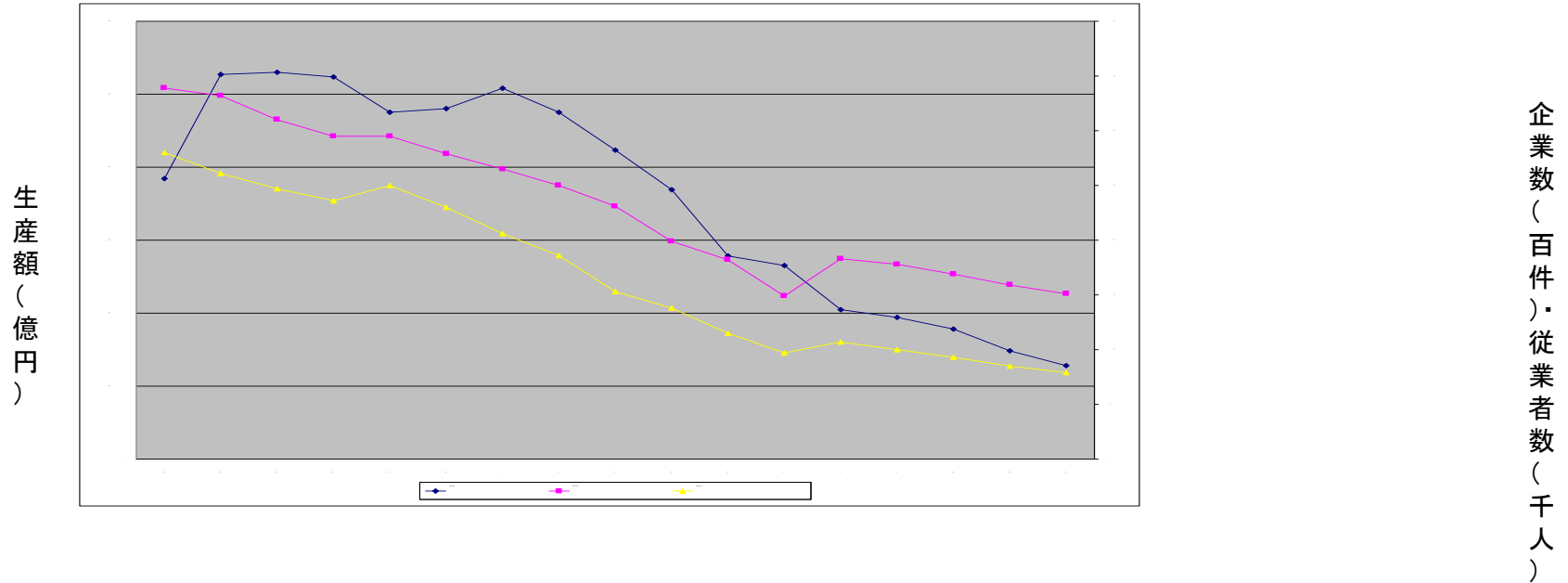


**地域伝統産業を元気にするための  
方策を考える勉強会  
第1回勉強会資料**

# 伝統的工芸品産業の生産額等の推移



項目	S49	S55	S57	S59	S61	S63	H2	H4	H6	H8	H10	H12	H14	H16	H18	H20	H21
生産額(億円)	3,844	5,271	5,301	5,237	4,753	4,803	5,082	4,752	4,234	3,692	2,784	2,653	2,048	1,942	1,782	1,484	1,281
企業数(百件)	339	332	310	295	295	279	265	250	231	199	182	149	183	178	169	159	151
従業者数(千人)	280	261	247	236	250	230	206	186	153	138	115	97	107	100	93	85	79

# 地域伝統産業の現状

## <和装産業>

### ■日本全体のきものの市場規模

1993年 1兆2992億円 → 2006年 4700億円 約1/3に縮小

### ■京都の和装関係

- ・西陣帯の出荷量 ピーク時(1976年)の約1割にまで減少
- ・京友禅総生産量 ピーク時(1971年)の約4%にまで減少

## <陶磁器>

### ■伝統的工芸品指定陶磁器の市場規模等

生産額 510億円(1992年ピーク時) → 2006年 250億円 約1/2に縮小  
従業者数 42,919人(1974年ピーク時) → 2006年 18,780人

## <漆器>

### ■伝統的工芸品指定陶磁器の市場規模等

生産額 539億円(1990年ピーク時) → 2006年 202億円 1/2以下に縮小  
従業者数 22,590人(1979年ピーク時) → 2006年 11,168人

# 地域伝統産業をめぐる明るい兆し

## ■環境意識の高まり

- ・大量生産、大量消費社会の反省
- ・「もったいない」価値観の普及→価値あるモノをより長く使用

## ■地域独自の文化を見直す風潮

- ・地域学の普及

## ■和ブームの到来

- ・グローバル化に伴う日本人としてのアイデンティティの再認識  
日本文化、、「ものづくり」に対する再評価
- ・和風の生活様式への関心の高まり  
(生活雑貨、浴衣、結婚式etc様々な分野で和ブーム)

## ■海外での日本文化への関心の高まり

- ・クールJAPAN
- ・訪日旅行者の増加

## ■新産業への貢献への期待

- ・匠のものづくりへのこだわり・技術 → 新産業への応用の可能性
- ・伝統の蓄積、日本の独自性・オリジナリティの海外での活用  
デザイン、食文化(ウマミ、味噌etc)

# 地域伝統産業の活性化に向けて

## (議論のポイント)

1. なぜ地域伝統産業の振興を図ることが必要なのか？  
その社会的意義は何か？
2. 地域伝統産業の多くは厳しい環境にあると言われているが、  
その要因は何か？
3. 地域伝統産業のために、国や自治体は、これまでも、支援の  
枠組みや制度を設け、様々な支援に取り組んできたが、  
売上は右肩下がりの状況にある。
  - ①課題認識に誤りはないか？
  - ②既存の制度、施策・取組の問題点があるとするれば、  
それはどこか？また、どのように改善すればよいか？
  - ③これまで取り組んでこなかった施策や取組で、地域伝統産業  
活性化のために、今後、取り組むべきものとして、どのような  
ものが考えられるか？

# 地域伝統産業の振興の意義とは？

## 1. なぜ地域伝統産業の振興を図ることが必要なのか？ その社会的意義は何か？

- 我が国の伝統文化と技術・技法を伝承する貴重な財産
- 地域伝統産業は、幅広い裾野を持つ地域の中核産業
- 我が国のものづくり文化の象徴。
- 日本産業のアイデンティティを形成。「日本らしさ」を表す「顔」
- 21世紀の循環型経済社会のテーマに合致した環境調和型産業
- 伝統産業の持つ多様性 → 新産業の苗床

# 地域伝統産業の売上低迷の要因は？

2. 地域伝統産業の多くは厳しい環境にあると言われているが、その要因は何か？

- 少子・高齢化による人口の減少
- 国民の生活様式や生活空間の変化
- 生活用品に対する国民意識の変化
- 大量生産方式による安価な生活用品の普及
- 海外からの安価な輸入品の増加
- ニーズに適合した商品開発の遅れ
- 知名度不足・効果的な情報提供の不足 等

# 地域伝統産業の課題認識は正しいか？

3. 地域伝統産業のために、国や自治体は、これまでも、支援の枠組みや制度を設け、様々な支援に取り組んできたが、売上は右肩下がりの状況にある。

①課題認識に誤りはないか？

## ■売上の低迷

### ■売上低迷を背景とする経営難、後継者確保難

- ・産地従事者は過去30年間で1／3、従事者の高齢化
- ・若年層の間に「就労意識の変化」、「将来への不安」

### ■生産基盤(原材料、生産用具等)の減衰・深刻化

- ・再生産に制約、原材料の再生・活用には相応の時間必要、減衰・枯渇の深刻化
- ・産業活動の縮小→生産用具の使用機会減少  
→製作用具は専業で成立不可→廃業



# 地域伝統産業活性化のための施策・取組

## 3. ②既存の制度、施策・取組の問題点があるとするれば、それはどこか？また、どのように改善すればよいか？

### <国の支援制度について>

- 伝産法の現行の枠組みは適切に機能しているといえるか？
  - ・ 伝産法の要件の緩和は必要ないか？  
(産地の規模要件、日常使用要件)
- 国の支援制度の拡充は必要か？必要とするれば、どの分野の支援か？
- 消費者が選択可能な適切な原産地表示制度への改善が必要ではないか？
- その他、改善すべき点はないか？
  - ・ 文化財の特性にあった契約方式の改善
  - ・ 文化財保全に係る入札方式の見直し、工期の柔軟性の確保 等

### <地方自治体の支援制度等の見直し>

- 既存支援施策・取組は適切に機能しているといえるか？
- より高い効果の発現を促す観点から、改善を図るべき点はないか？
- 府と市の施策・取組間の更なる連携促進の可能性はないか？

### <その他>

- 組合等の独自事業は適切かつ効果的に行われているか？

# 地域伝統産業活性化のための施策・取組

3. ③これまで取り組んでこなかった施策や取組で、地域伝統産業活性化のために、今後、取り組むべきものとして、どのようなものが考えられるか？

例えば

■他産業・他分野との連携強化

・文化行政との連携強化(学校給食、祭etc)、観光関連産業との連携

■産地プロデューサーの育成

・京都伝統工芸大学校での育成や産地プロデューサーを活用した事業でのインターンシップ

■分業行程の連続性確保のための技術習得支援

■原材料・道具・部品等の確保(文化財・伝統産業の杜)

■地域伝統産業を民間資金で支える新たな仕組みはできないか？

■海外市場へのより効果的なPR・販路開拓方法 等